

『黒潮博』オープン

初日は『南国みどり館』に6千人

「地方」その望まじき未来」をテーマに、二十一世紀を展望した黒潮博覧会が三月二十日幕を開けました。午前九時、煙火を合図にファンファーレとともに、小笠原市長ら十二名による正面玄関でのテープカット。正面ゲート左側の「南国みどり館」には初日約六千人が入場しました。



なかなか好評の「南国みどり館」—白銀のエアードームには市の鳥「オナガドリ」が描かれている。

まず、回転ドアを押してドームに入れば正面に、高床式穀物庫の復元模型が目に入ります。背景は田村地区より東へ野市町、土佐山田町の竜ヶ洞方面の山並みが連なり往時が忍ばれます。足元には、

田村遺跡の水田跡から発見された古代人の足跡が、ジュートンにはりつけてあり、二千年前の世界へ皆さんを誘います。

現代コーナーでは、世界で最初に製作された、小型実用型ディーゼルエンジン一号機をはじめ、国産初期の耕うん機、またマイコン制御の音声警報装置付きボイスコ



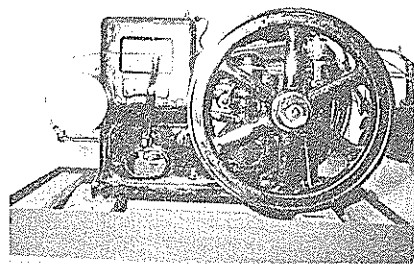
古代農業コーナーに復元された4メートルもある高床式穀物庫



水耕栽培で立派に育ったトマト

ンバインなどが目をひきます。また、市の観光、名所、産業を紹介するビデオコーナーも設けられています。

未来コーナーへ足を踏み入れると、ぐっと明るくなり透明のフィルムから青空が見えます。空中約六層のトマトのタワーには真っ赤に実がなり、そのほかレタス、イ



半世紀前に製作された重厚なディーゼルエンジン



感謝状を受ける華道協和会の代表者

『絵金の芝居絵』よみがえる

華道協和会の善意で

貴重な「絵金の芝居絵」の保存に使ってください——と昨年の十一月七日、県華道協和会（有沢梅窓理事長、二十二流派）から、片山公民館に修復費百二十万円が寄付されました。

これは、昨年の十月十日付高知新聞に、片山公民館所蔵の絵金一派の芝居絵の修復を望む記事が掲載されたのがきっかけとなったもの。三カ月間、専門家の手によって進められていた修復がこのほど

のものが二枚あり、修復費は百二十四万円、収納箱が六万円です。地元でも「ただ厚意に甘えるだけではないけない」と、二十万円の募金を集め、基金を作り保存に役立てていくことになりました。

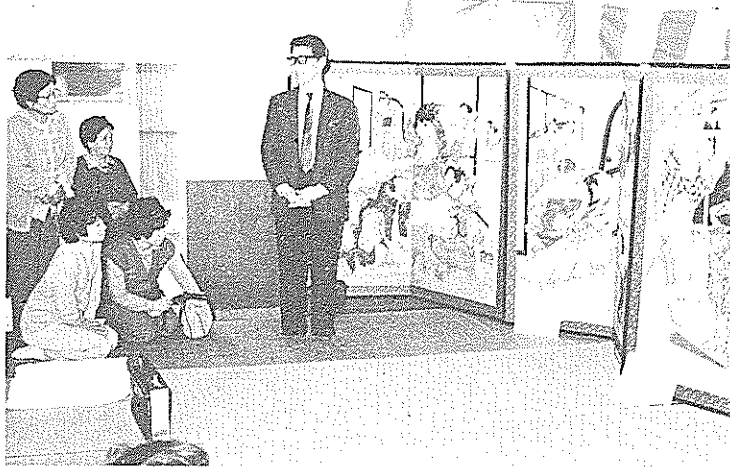
完成し三月十八日、華道協和会の方を招き、地元で披露されました。修復された絵は、びょうぶ絵十五枚、うち巻紙になっていた小型

お披露会では、まず松本猪輔公民館長が「高知新聞が縁で、地元の大切な文化財が再び修復でき、華道会の皆さんに心から感謝

しています。小笠原市長は「多くの人に見てもらえるよう努力したい」とお礼を述べ、感謝状と記念品を送りました。有沢理事長は「美を愛するものとして、ささやかながらお役に立ててうれし。古表具の出来栄もすばらしく、古典の美を末代まで大切に残して欲しい」と答えていました。

その後、絵金の研究家として知られる近森敏夫さんが、それぞれの絵の背景となっている物語の内容や、描き方の特色など細かに説明し、鮮やかな色彩でよみがえった絵を見ながら、地元の人々は熱心に聞き入っていました。

壁に飾って、来園者の方にも見てもらうということです。



絵金の説明を聞きながら、修復されたびょうぶ絵を鑑賞する地元の人たち

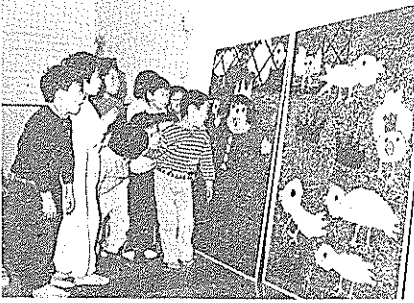
卒園記念に モザイク画贈る

((岡豊保育所))

卒園する園児がモザイク画をプレゼント——岡豊保育所（久米佐知子所長）では、今年の卒園児四十九人が共同で、紙を使った大きなモザイク画を作り、卒園記念に贈りました。

三月二十四日の卒園式には、この絵をバックに、お父さんやお母さんの前で劇を披露し、盛んな拍手を受けていました。

その後は、保育所玄関の正面の



力作のモザイク画に見とれる卒園児たち